

農業

平成25年6月号
会誌 No. 1573



目次

巻頭言

地域連携の中で.....五月女昌巳 3

論壇

大震災から見えた「食べる…」.....鈴木 建夫 4

農業技術開発研究会

先進諸国の技術開発・普及の動向（Ⅱ）.....横山 繁樹 6
ーデンマーク、オランダと意見交換ー
デンマークの支援体制：農民組合の伝統と新たな動き
オランダの農業技術普及システムの変容
意見交換

地域農業交流セミナー

稲・麦・大豆を中心とした土地利用型作物の生産性向上（Ⅱ）..... 23
ー平成24年度中国・四国地域農業交流セミナー（岡山）ー
講演
大豆300A 技術の現地実証からみた大豆栽培技術の課題.....有原 丈二 23
長年の水田転作に伴う地力低下について.....新良 力也 30

農事功績者座談会

地域ブランドの向上を目指して－多様な水田農業経営を模索－	42
私の経営と農業への思い	澁谷 幸男 43
現地指導者のコメント	渡辺 喜芳 50
質疑・討論	53

農業・農村の現場から

小麦を中心とした安定経営を目指して ～2012年度全国麦作共励会 農家の部 川上修一さん・由美子さん～ 農林水産大臣賞受賞	藤田 薫 62
---	---------

世界の農業は今

インドにおける砂糖消費と生産の動向	草野 拓司 67
-------------------	----------

統計情報	72
------	----

農政情報	73
------	----

大日本農会だより	74
----------	----

表紙写真説明

働くアイガモ（岐阜県羽島市桑原町大須）

アイガモ農法は、有機農業、減農薬などを目的に、2000年ごろから全国の水田稲作農家に少しずつ広まった。田植え後、水田に放されたアイガモは、雑草や害虫を餌とする。また、排泄物は、稲の肥料になり、除草剤、殺虫剤などの農薬を減らすことができる。

岐阜県羽島市桑原町の大須地域では「アイガモ稲作研究会」があり、盛んな地域である。アイガモ農法で作られた米で、羽島市の日本酒醸造メーカーが「純米吟醸・純米大吟醸」酒をつくっている。また、地元羽島市立桑原小学校では、「アイガモを利用した米作りを通じた農業と環境について学ぶ」という農業体験学習支援事業を実施している。これは、農林水産省の「農林漁業現地事例情報」にも紹介されている。

羽島市の木曽川、長良川という河川によって育まれた広大な農地では、温暖な気候と豊富な水を背景として、稲作中心の農業が展開され、レンコンや十六ささげ、イチゴなどの栽培や施設園芸、又南部を中心として畜産業も営まれている。また、収益性の高い園芸作物として、アスパラガスの栽培にも取り組んでいる。（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）